





私もまだ
巻添えにされ
罪を着せられた！

私の家は
父が亡くなって
ことをいいことに、
叔父たちが勝手に
関わったばかりに、

古麻呂殿は
それで良かった
のです。



私も大舎人に
なったばかりで
どうしてよいか
わからず、

急ぎ近江を
離れました。



父の鎌足や
藤原一族の名を
復権させなければ
なりません。

今になってやっと、
誤解が解け、
何とかここまで
来ました。



そうだったん
ですか！



古麻呂殿が
東国下毛野の出身
だからですよ。



こんな話は
古麻呂殿にしか
したことありません。

なぜ、
私に？



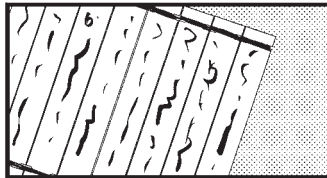
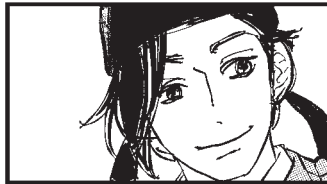
そうだった
んですか。

だから古麻呂さんや
佐久良さんの会話を
聞くとなんだか、
懐かしくて。



私の家、中臣氏も
元々は東国の
常陸の出身で、

実は私の母も
上毛野の車持氏の
出なんです。

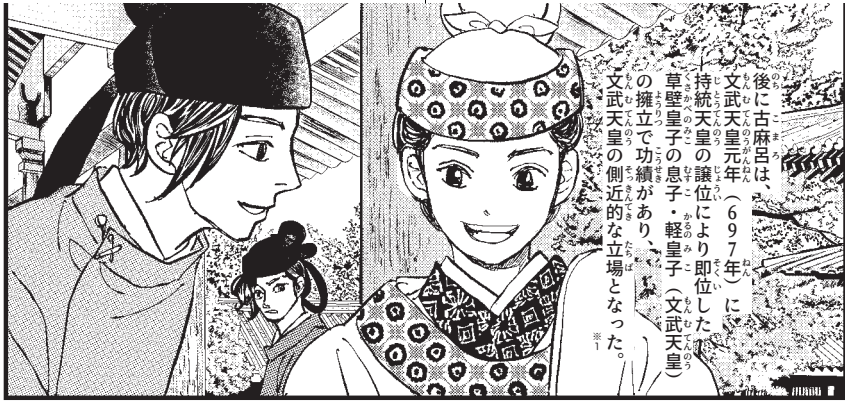


不比等様、
草壁皇子が
お呼びです。

不比等は天武朝後期には
草壁皇子(天武・持統の子)に仕え、
法律や文筆の才によって登用された。
不比等は草壁皇子に仕えた関係から、
皇子の信任を得て、急速に出世していく。

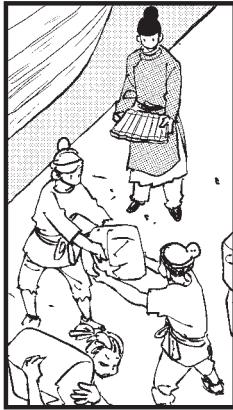


私は
唐に行つて
みたい…。



後に古麻呂は
 文武天皇元年（697年）に
 持統天皇の譲位により即位した
 草壁皇子の息子・軽皇子（文武天皇）
 の擁立で功績があり、
 文武天皇の側近的な立場となった。

※1 藤原一族に危機感を与える原因となり、古麻呂が亡くなった後の下毛野一族の衰退につながる。



686年9月9日に天武天皇が崩御。
 24日、大津皇子が草壁皇子に謀反。
 10月3日死を賜る。
 689年4月13日、皇太子草壁皇子死去。
 6月、浄御原令が施行され、唐に倣った
 都城の整備を進めた。
 そして690年1月1日、
 持統天皇が即位した。



これは古麻呂殿
 ではないですか。



残念なことに皇子がお亡くなりになって…

草壁皇子のご恩に
応えようと仕事に
励んでいたのですが、

ありがとうございます。
ございます。

不比等様、
この度の判事への
ご出世おめでとうございます。



不比等様は
以前から何事にも
努力を惜しまない
方ですから。

微力ながら
励んでいます。



菩提を弔うために出家して、
僧にでもなろうかと考えていたところ、
先帝の皇后が
持統天皇として即位され、
私におそばで働くと勅命があったんです。

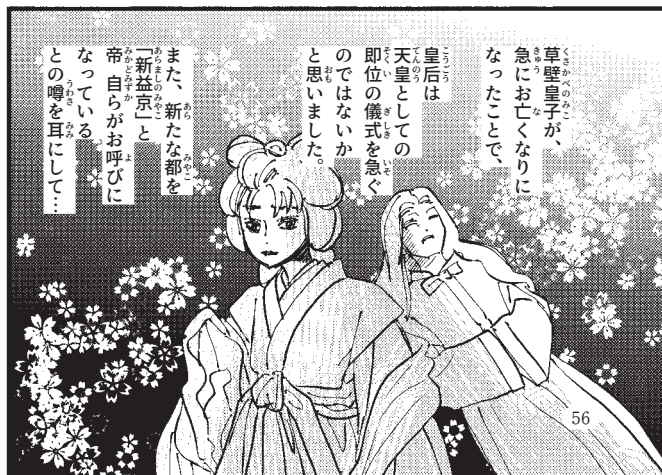


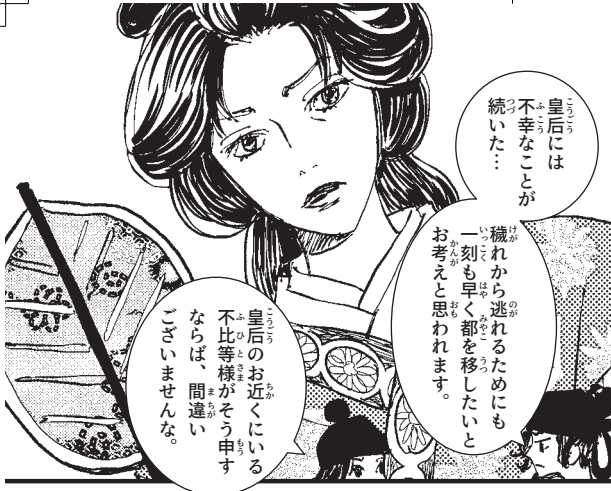
私の努力だけで
ないんです。

壬甲の乱で処刑
された叔父もいたが、

他の叔父の中には
此度の天津皇子の
謀反鎮圧に功があり
持統天皇に
認められた
叔父や従弟もいる。

その者たちの
お蔭もあるんです。





皇后には
不幸なことが
続いた：

穢れから逃れるためにも
一刻も早く都を移したいと
お考えと思われます。

皇后のお近くにいる
不比等様がそう申す
ならば、間違いない
ございませんな。



噂については
知らないが、
さすが、
古麻呂殿だ。
その読みは
恐らく当たる
と思えますよ。

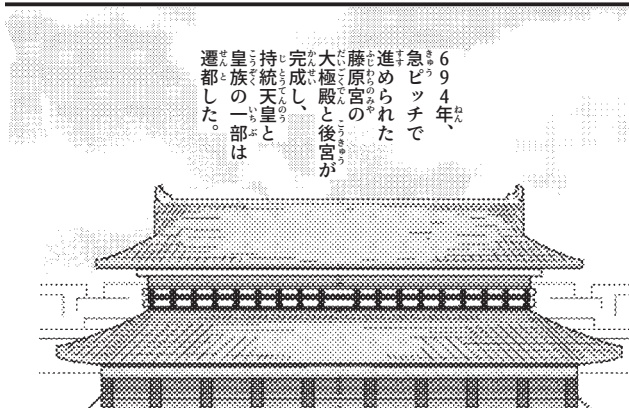


彼は政の内情を
察する力を
どこで身に付けた
のだろうか？



こちらこそ、
失礼いたします。

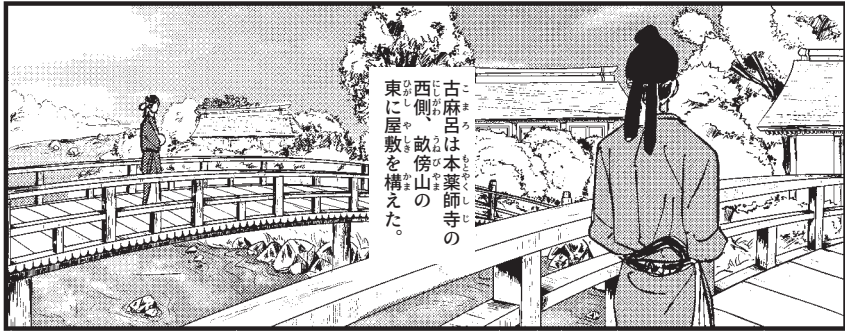
古麻呂殿、
私はここで
失礼します。



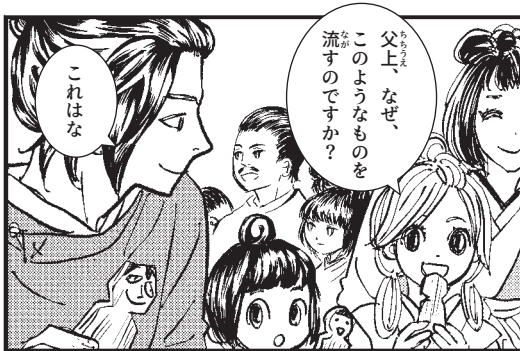
694年、
急ピッチで
進められた
藤原宮の
大極殿と後宮が
完成し、
持統天皇と
皇族の一部は
遷都した。



いずれ、
われらの地位を
脅かす者となる
かもしれん。



古麻呂は本薬師寺の西側、畝傍山の東に屋敷を構えた。

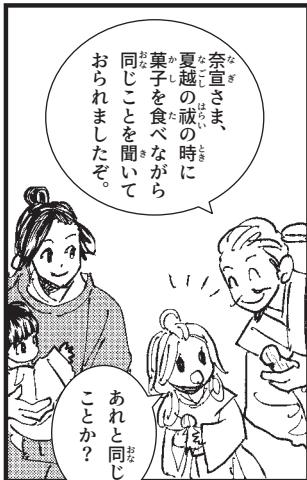


これはな

父上、なぜ、このようなものを流すのですか？



694年
12月中頃



奈宣さま、夏越の祓の時に菓子を食べながら同じことを聞いておられましたぞ。

あれと同じことか？



身体の中になまった悪い心や病気などを水に流して、

長月(9月)からこの暮れまでの間に

きれいな心と身体で新しい年をお迎えするためののだよ。



奈宣、
棗の人形も
きちんと流して
あげなさい。

新しい年には
もう一人、
妹か弟が増える
のですから。



しかし、
富本銭を造る鑄銭司や
地方の役所で働く者の
中には不届き者がおり、
錢や税物を
横領する者
がいると聞く。



浄御原令を
制定して7年となる。
戸籍や計帳など、
地方を統括する仕組みは
できあがりつつある。

また、都が整備され
令の決まりにより
官僚が増えている。

役人たちが良く
働いてくれている
と聞いている。

先の令が制定され、
都はもとより
地方においても



同じ罪で
刑がそれぞれ
異なっては
問題だな。

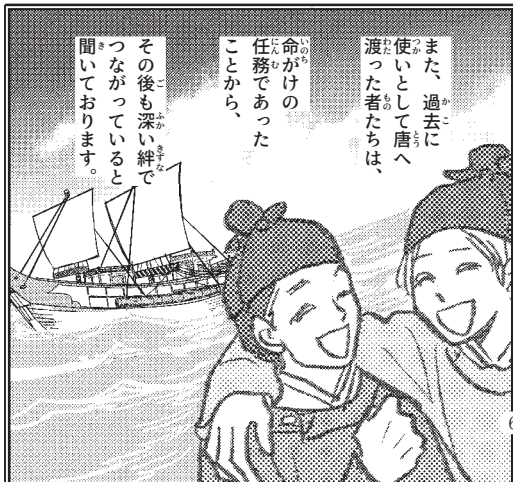


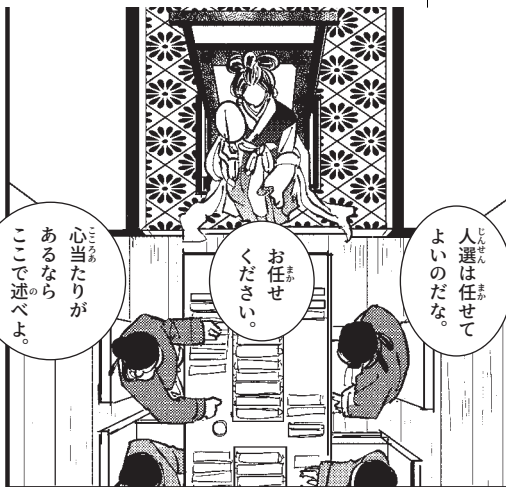
これまで、
唐の律(刑法)を
参考にそれぞれ
量刑を決めて
おりましたが、
都と地方で
差があるような
報告も受けて
おります。

これらへの
処罰は
どのようになっ
て
おるのか？

※1 683年頃につくられた錢貨(せんか)の複製

※2 貨幣をつくるために設けられた役所





心当たりがあるなら
ここで述べよ。

お任せ
ください。

人は任せて
よいのだな。



彼らならできると
思います。



20名程度を
考えております。

また天智帝
(669年)の
御代に唐に渡った
者たちを中心に

親の代に渡来
して来た者

先ほど
申しました
通り



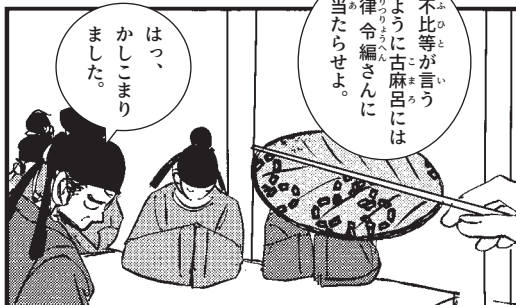
この中に
下毛野朝臣古麻呂も
入れたいと思います。



最高責任者として
皇族から刑部親王、
次にそなたが入れ。

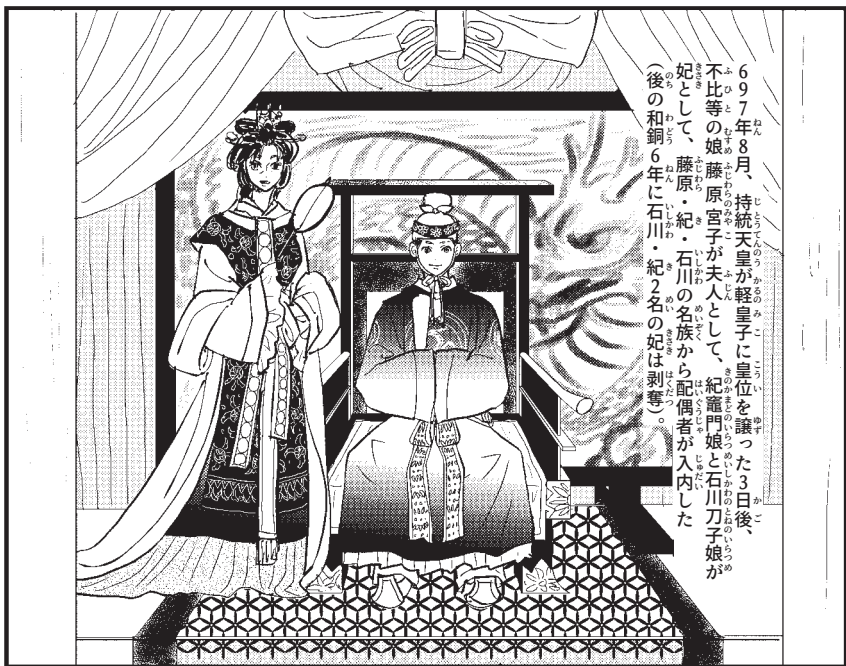


お願いが
ございます。

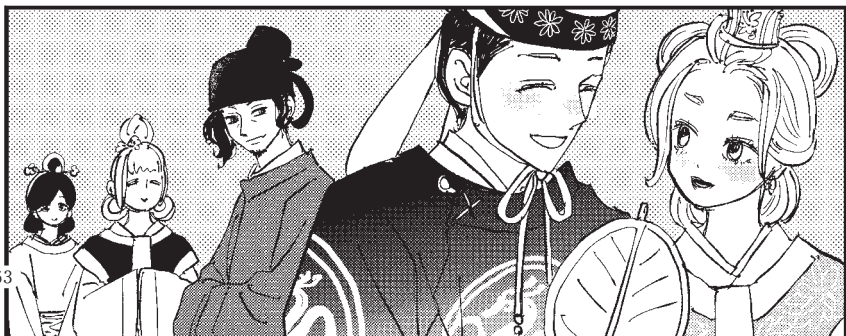




これではばらく
古麻呂を軽皇子から
遠ざけることができた。
でないと次の皇位に
皇子が付いた時に
古麻呂に今の私の
立場を奪われかねない。
何とかしておかねば…



697年8月、持統天皇が軽皇子に皇位を譲った3日後、
不比等の娘藤原宮子が夫人として、紀籠門娘と石川刀子娘が
妃として、藤原・紀・石川の名族から配偶者が入内した
（後の和銅6年に石川・紀2名の妃は剥奪。）





大宰律令の編さん部屋



不比等様

そのような
仰せですが、

新たに
興大善三千代様を
奥方様にお迎えに
なつたとお伺い
しております。

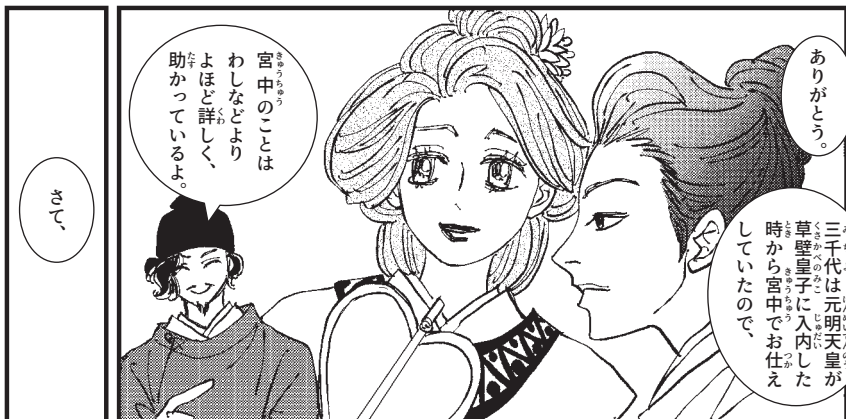
誠におめでとう
ございます。



大納言などに
なるものでは
ないな。

あれやこれやと
仕事が増えて
屋敷に戻る
時間も無いわ。

※ 不比等と三千代との間に生まれたのが光明子で、後に聖武天皇后となる。



ありがとう。

三千代は元明天皇が
草壁皇子に入内した
時から宮中でお仕え
していたので、

宮中のことは
わしなどより
よほど詳しく、
助かっているよ。

さっ。





下級の役人は
もとより
庶民は政に
関心を持たず、
口も出さず、



言われた
とおりに
していれば
いいんです！

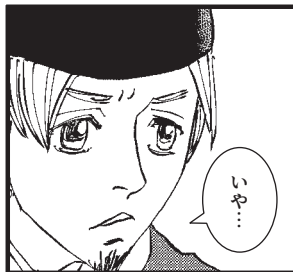


いや、法などは
一部の者が理解して
いれば十分だ。

皆がわかってしまうと、
理解している者の
価値が下がってしまう！



フン



いや…



そうでしょう、
真入殿。



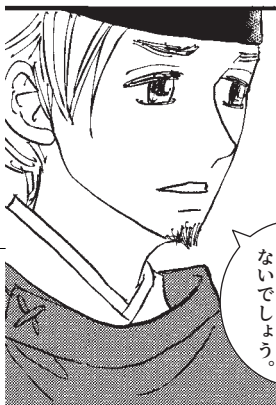
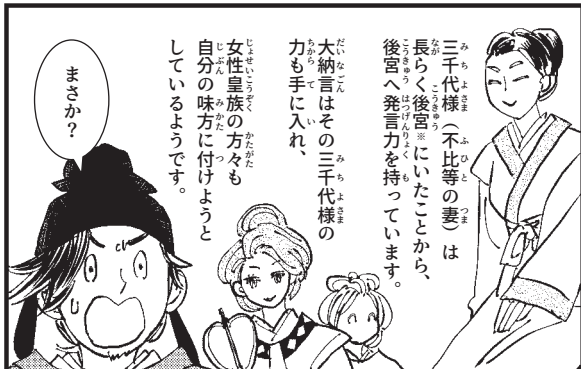
何をです？

古麻呂殿は大納言と
昔からのお知り合い
のようですが、
気を付けられよ。



あのような言い方、
昔はしなかった。

大納言は
以前と変わって
しまいましたね。





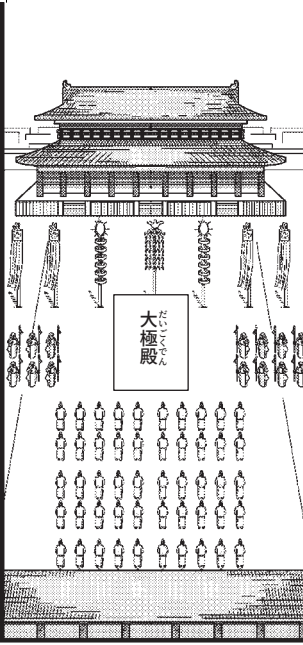
帝 みかど

編さんへんさんに携かかわった者ものたちの労苦ろうこに対して禄ろくを与たまえるようご指示ししてください。



ははっ

そのように取り計とらえ。



大極殿 だいくきょう

文武天皇4 (700) 年3月 もんぶてんのう ねん 3がつ



文武天皇5年 (大宝元年・701) 正月 もんぶてんのう ねん (たいほうがんねん 701) 1がつ



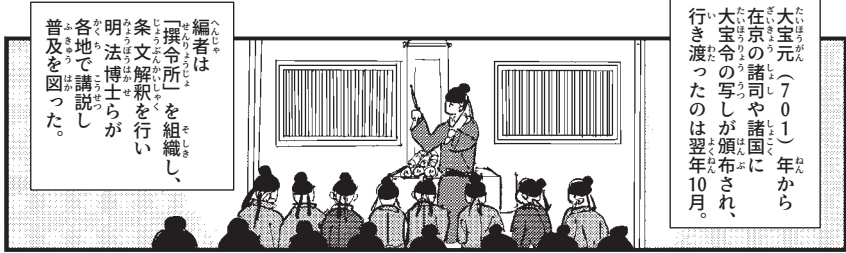
律は700年
3月から選定に入り、
翌年8月に完成。
ここで律と令が揃った。

さらに、律令
編さん者に対して
禄を与えられた。



この年の6月、

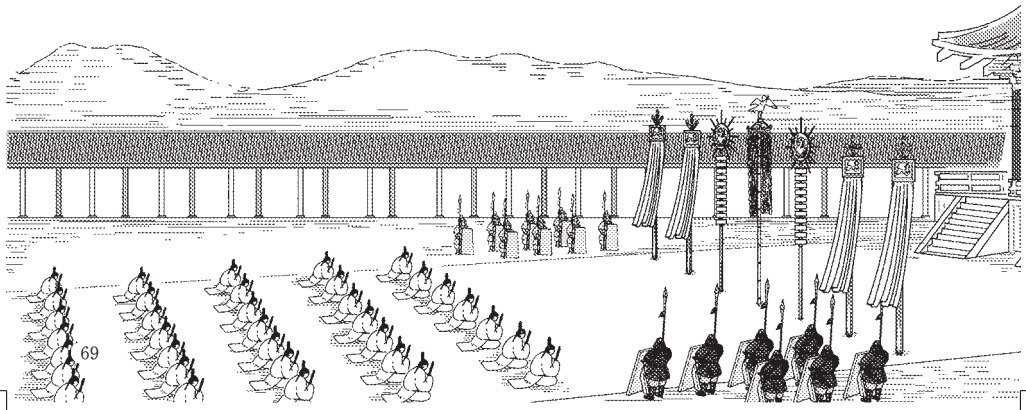
編さん者に
禄が与えられた。



大宝元(701)年から
在京の諸司や諸国に
大宝令の写しが頒布され、
行き渡ったのは翌年10月。

編者は
「撰令所」を組織し、
条文解釈を行い
明法博士らが
各地で講説し
普及を図った。

天皇は大極殿で
朝賀の儀式を受けた。





みなさん

やっと終わりましたね。大変ご苦労様でした。

では、さっそくこの撰令所から各地に出向いて

法を説明する人選を行ってください。



そう、その人選から

真人さんと古麻呂さんは外してください。



えっ？



間違いがあつたら担当者の責任です。そのつもりで。これは帝からの命令です。

はっ。

※1 古代日本の律令制での地方行政上の地域区分



古麻呂さん是非、お願いします。

はあ。



各地は皆に任せればよいのですが、問題は宮中の方々です。

一応、理解してもらわなければなりません。

でも、説明は要点のみで結構です。

特に皇族や高官の方々



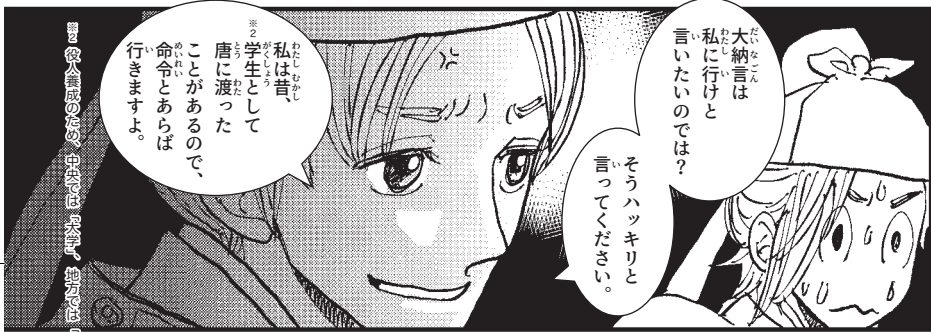
また、わが国でも
これだけのことが
できると、

律令を唐の
國に持参して、

唐と対等であると
宣言してこなければ
なりません。

さて、

これは誰に行って
もらいますかね。

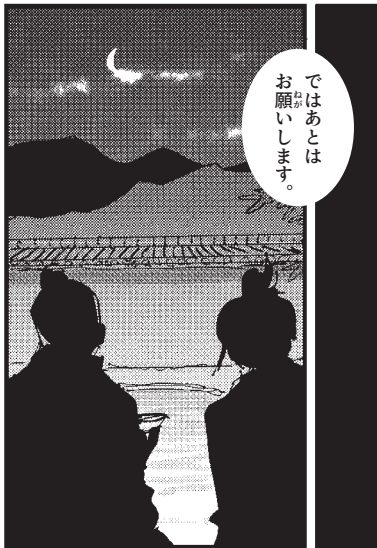


大納言は
私に行けと
言いたいのでは？

そうハッキリと
言ってください。

私は昔、
*2 学生として
唐に渡った
ことがあるので、
命令とあらば
行きますよ。

※2 大納言の「大納言」は、唐の「大納言」ではなく、唐の「大納言」の代表。



ではあとは
お願いします。



ではお願い
しますか。

今回は
*3 節刀使として、
行けるように
手配しましょう。

*3 使節団の代表



古麻呂殿

私たちはどうも
大納言に煙たがれて
いるな。

なぜ、
そんな。

わしもそなたも
仕事をし過ぎた
のかもしれないな。



大納言はすべて
自分の手柄にしたい
のだろう。

そのためにも
私たちが邪魔
なんじやろう。

でも、私は皇族や
高官への説明を
仰せつかっています。

そこじゃよ、
わしはことは唐へ
飛ばして
しまえばいい。

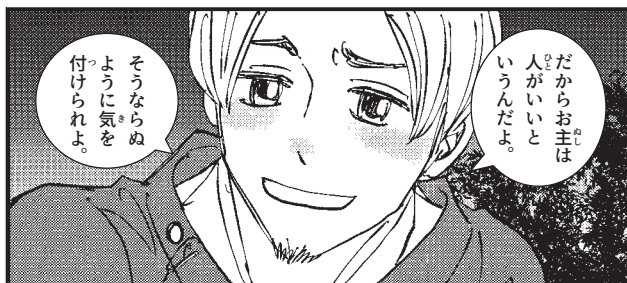


まさか、
そこまでは…

そうなれば、
下毛野で暮らせと
左遷すればよいだけじゃ。

特に文武天皇の覚えめでたい
お主は大納言の邪魔になって
いるのかもしれない。

勤ぐりすぎかもしれないが、
皇族や高官からお主の
説明が悪く反発ができれば、
ここぞとばかり今の要職
から外すことができる。



そうならぬ
ように気を
付けられよ。

だからお主は
人がいいと
いうんだよ。



行きつくことも
帰ってこられるか
どうかも天候次第。
残念だ、で済む。

では、
どうして
私が？



私も真人殿と唐に行ってみたかった…。



まあ、わしは船の上で、新鮮な魚で宴をしながら唐に向かうことにしよう。

お主と行けないのが残念じゃ。あつはつは…

※ 真人は603年に遣唐使として唐へ渡っている



若い時、すでに唐に行ったことのある真人殿に案内してもらえたら、さぞ楽しかったろうに…。



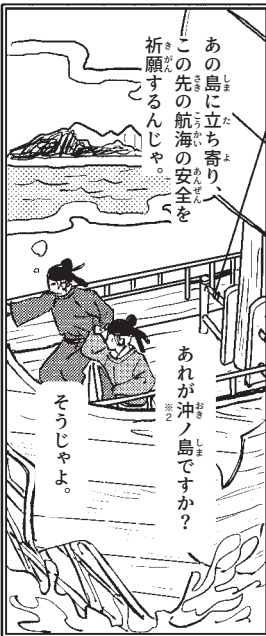
そうじゃ、龍神の逆鱗に触れると、遭難するといわれておる。

「機嫌を損なわないように大海を通してもらうのじゃよ。」



龍神？

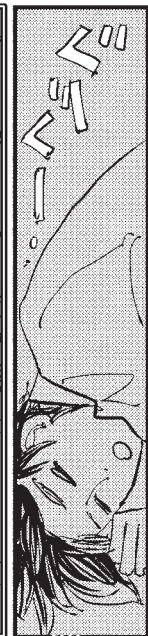
安全を祈願したおれと共に海の龍神へのお供えもいただくのだよ。



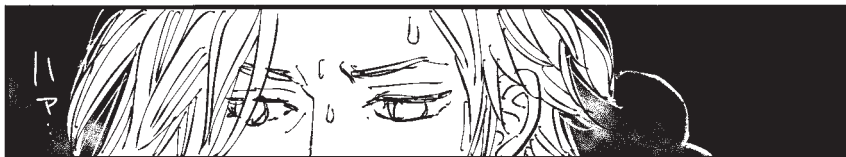
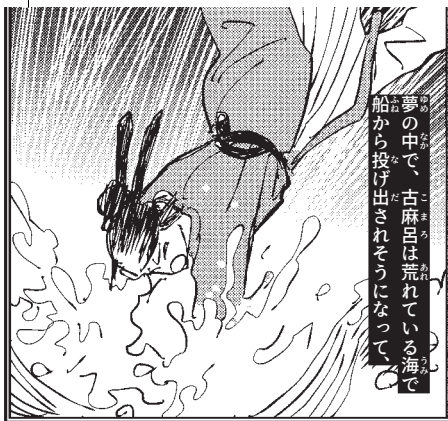
あの島に立ち寄り、この先の航海の安全を祈願するんじや。

あれが沖ノ島ですか？

そうじゃよ。



※ 九州本土から北へ約60km離れた現在の福岡県宗像市にある島



※このメンバーが朝政に参議として加わるようになった背景には、古麻呂をはじめ文武天皇の覚えめでたいこの5人を不比等が自らの配下として加えることで、文武天皇の不比等に対する信任を得ようとした

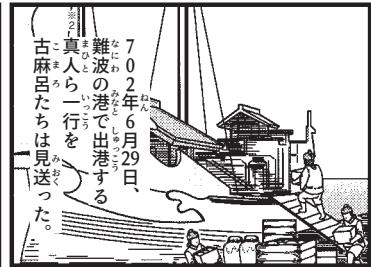


今後は、余のために
参議として朝政に
参加するように。



お帰りになつたらまた、
私の屋敷で月を見ながら
酒を飲みましょう。

真人殿、
お気をつけて。



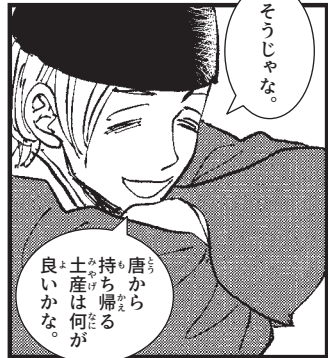
702年6月29日、
難波の港で出港する
真人ら一行を
古麻呂たちは見送った。



また、仏に開かる
ものでよいものが
あれば、是非、
お願いします。

わかりました。

是非、經典を
お願いいたします。
下毛野の薬師寺に
納める經典を
集めています。



そうじゃな。

唐から
持ち帰る
土産は何が
良いかな。

※ 不平等に従わなかったため、真人は702年6月に唐へ向けて再び遣唐使節として唐に向けて派遣された